

はじめに

山下 由紀恵 島根県立大学短期大学部教授

矢島 毅昌 島根県立大学短期大学部講師

Introduction

Yukie Yamashita

The University of Shimane Junior College Professor

Takaaki Yajima

The University of Shimane Junior College Lecturer

矢島 本日はご多忙の中、また、お足元のお悪い中、島根県立大学短期大学部松江キャンパス主催研究準備協議会、地域共生へのアプローチにご来場いただきまして、まことにありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより開会とさせていただきます。

本協議会は、文部科学省より本学が選定を受けた平成25年度地(知)の拠点整備事業の一環として開催されるものでございます。今後、本学が地域と大学の一体的な教育研究活動を展開していく上で、さらなる準備を進めるための協議会になるかと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

本日の進行は、私、保育学科の矢島が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最初に、島根県立大学短期大学部・山下由紀恵副学長よりご挨拶と概要説明をいたします。

山下 こんにちは。ようこそお集まりくださいました。平成26年度4月1日からしまね地域共生センターを松江キャンパスに開設いたしまして、センター長には現在の地域連携推進センター副センター長・小泉凡先生がつかれることに決まっています。また、オープニングセレモニーを5月14日水曜日の午後予定しております。玄田有史先生にもお越しいただきまして、島根の希望について語っていくよい機会にしたいと考えております。そうした平成26年度の松江キャンパスのCOC事業のスタートに当たりまして、先ほどご案内ありましたとおり、「地域共生へのアプローチ」としまして、本日準備協議会を企画いたしました。松江キャンパスでこれまで行われてまいりました地域貢献に係る研究、教育、それらをまとめて次のステップへの見通しをこの機会に協議会を通して立てていきたいと考えております。

では、事業の説明をいたします。

島根県立大学3キャンパス全体で取り組みますこの事業の、特に3キャンパスを結ぶ全域プ

プラットフォームとしての「縁結びプラットフォーム」の事業は、松江キャンパス、出雲キャンパス、浜田キャンパスの連携により一体的に行われていくものです。その中でキャンパスプラットフォーム、地域の拠点といたしますか、よりどころとして、松江キャンパスは「しまね地域共生センター」を立ち上げます。このキャンパスプラットフォームですが、今回の事業ではインターネット、ネットワークシステムを導入いたしまして、松江市周辺のみならず全県域、中山間地域と離島を含む、不便なところも含む全県域を松江キャンパスからも自分たちの地域としてかかわる対象として研究、教育を進めていきたいと考えているところです。

今、スライドに見えますのが、しまね地域共生センターの今後の目標です。私たちはこのセンターで過疎の現場で生きる学習、特に専門職向けの学習のプログラムをつくり上げたいと考えています。このセンターを中心にもとに支え合う地域の学びのプラットフォームとして専門職と連携し、松江キャンパスの持ち味を生かしていきたいと考えております(図1)。

このプログラムですが、大学には学士、修士、博士といったような学位を出すメカニズムがありますが、あわせて履修証明というものを学長名で出すことができます。そうした制度を利用して社会人のための「地域共生専門コース」というものをつくろうというのが私たち松江キャンパスのセンターの大きな目標です。

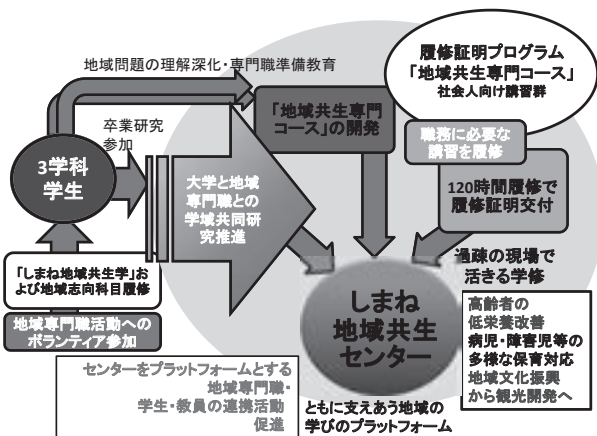


図1 センター概要

この社会人のためのプログラムですけれども、島根県の中山間地域、それから離島を含むこの島根県で活躍している専門職の方が必要としているのはどういう知識、それからスキルなのか、現場に出られてから大学時代学んだものとは違う教育を必要としておられるとするならば、それはどのようなものなのか、まずは平成26年度、27年度中に地域の方々と共同研究を進めて、その共同研究の成果を次に平成28年度以降、このプログラムに生かしていこうと考えております。この事業は5カ年間の事業で、平成25年度は既に終了しつつありますが、26、27が共同研究、28年度から29年度に向かって履修証明プログラムを確実なものに仕上げていきたいと考えております。

こうした社会人向けのプログラムが完成年度までにでき上がるというのが私たちの目標ですが、あわせてこうしたこの地域独特のいろいろな問題は学生、3学科の学生にとっても専門職準備教育として必要なものです。そうした中で、学生には「しまね地域共生学入門」といったような学生向けの科目を新規に開設し、3キャンパスの必修科目として履修してもらいつつ、こうした専門職との共同研究の中に自主的に卒業研究などを通して参加し、さらにそうした履修プログラムが立ち上がったからは、そこに、単位は取れませんが、参加してもらうことで地域問題の理解を深めてもらいたいと、今、私たちは考えているところです(表1)。

島根県全域をカバーする地域課題を解決とするならばどのような課題があるかということで、差し当たりですけれども、8つの分野というものを現在考えております。低栄養高齢者の栄養改善指導、それから各地域の年齢別食育と地産地消、このあたりは健康栄養学科の領域だと考えております。それから各地域の医療体制・教育体制にあわせた病児・障害児保育と早期の相談支援体制、地域全体で子どもを育むための多様な地域支援体制、地域で支える生涯学習・教育基盤、3、4、5あたりは保育学科の専門領域に係

表1 過疎の現場で生きる学修

地域専門職との連携	共同研究および研修の8分野(新規科目開発→現場で活かす「履修証明プログラム」へ)	
(1)管理栄養士・栄養士	低栄養高齢者の栄養改善指導のための研究と研修	個別相談者として支援できる 職能
(2)栄養教諭・管理栄養士・栄養士	各地域の年齢別食育・地産地消のための研究と研修	
(3)保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭	各地域の医療体制・教育体制にあわせた病児・障害児保育と相談支援体制の研究と研修	
(4)保育士・幼稚園教諭・指導員	地域全体で子どもを育むための多様な地域支援体制の研究と研修	地域基盤・人材ネットワーク の構築力
(5)図書館司書・学校司書・司書教諭	地域で支える生涯学習・教育基盤の研究と研修	
(6)NPO法人・市民団体・郷土研究者	地域文化資源の掘り起こし・評価・活用の研究と研修	地域の資源(シーズ)を知り 開発できる人材
(7)NPO法人・企業・市民団体	豊かな自然・歴史や文化を活用した観光開発の研究と研修	
(8)企業・団体	特色ある地域特産品・食品開発の研究と研修	

る領域が関係すると考えています。また4、5も含めて、低年齢の子どもだけでなく生涯学習の基盤を考えていくというあたりから総合文化学科の領域に入ってまいります。そしてまた6の地域文化資源の掘り起こし・評価・活用、それから7の豊かな自然・歴史や文化を活用した観光開発、このあたりは総合文化学科の領域と考えております。また8番目、特色ある地域特産品・食品開発、このあたりは観光を、観光開発にあわせて総合文化学科の領域であるとともに、健康栄養学科の領域であるというふうに考えております。この8つの分野ですけれども、この5カ年間に修正をかけていって、本当に必要な分野をプログラムにしていこうというのが現在の計画です。

また、現在、科研費のほかに学内にありますさまざまな競争的な研究費、資源をもとに研究を進めてまいります。あわせてこのCOC事業の中では「しまね地域共育・共創研究助成金」という制度がつけられましたので、その助成金を得て、この領域を共同研究で進めて、開発していきたいと考えております。

平成25年度の助成金は、私が匹見町道川地区の民話の掘り起こしの研究で一つ採択されておりまして、これは先般2月21日の全域フォーラムで全体概要を発表させていただきました。また地域活動経費につきましては、健康栄養学科が名和田教授を代表者として、つや姫というお米の開発について採択されておりまして、本日の発表の中にもその内容は含まれていると考えており

ます。また総合文化学科の工藤先生が、観光開発について地域活動経費を採択されておりまして、それについては本日、後ろのパネルで活動内容を発表していただいたところです。工藤先生の発表内容などは第7分野に相当すると思います。また、名和田先生の発表内容は第8分野に相当すると思います。私が取り組みました匹見町の民話の研究などは他の総合文化学科の先生たちとも連携しながら進めているところですが、4番、それから6番あたりにかかってくる研究だと考えております。

こうしたさまざまな分野にまたがる研究ですけれども、この研究を通して私たちが目指しているのが「個別相談者として支援できる職能」「地域基盤・人材ネットワークの構築力」「地域の資源、シーズを知り、開発できる人材の開発」です。先ほど申し上げた8つの領域がこうした人材育成の3つの柱にかかっていると考えています。また、この3つの柱を通して、コミュニティーの存続を担う地域専門職を大学卒業後も支援し続け、ともに共同研究を進めていき、その職能開発に大学として貢献したいと考えております。現場の先生たちがそのコースを履修することによって、ますます地域に貢献できるようにというのが最終的なこのセンターの目標です。

このセンターですけれども、既にセンターの組織というものを立ち上げております。立ち上げる規程も制定しております。こうした組織を中心に、今後センターは平成26年度以降、今申し上げま

した活動に向かって取り組み進めていくということになります。特に研究につきましては研究連携協議会というものをつくりまして、学外の研究協力者の方々には委員として、さまざまにこのセンターの取り組みにご意見をいただきたいと考えております。また、インターネットを通してのウェブ上の会議などにも加わっていただくために、IDを取得する事なども進め、お願いしたいと考えているところです。

以上、これまで私たちが準備してまいりましたセンターの仕組みについてご説明いたしました。

本日は、この後、この現在までの取り組みで皆様の前で私たちが発表できる内容を3本の柱を立てて発表いたします。健康栄養学科、保育学科、総合文化学科がこれまで取り組んできた内容と今後の研究計画について、どうぞ一緒に考えていただき、またご意見を寄せていただけたらと考えます。よろしくお願いたします。